

第5回 技術検討委員会（H28.10.28）の主な意見とその対応について

1. 複数ルート案の比較評価について（定性的評価）

【事業実施にあたっての留意事項】

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 地形・地盤的課題において、「高架橋では、琉球石灰岩を支持層としない」としているが、県内の事例では、琉球石灰岩の層厚が80～90mの場合でも、経済性を考慮し、途中で安定した硬い層が5m程度続いた位置を支持層としたものがある。琉球石灰岩を支持層とすることも想定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 琉球石灰岩は原則、支持層としては想定していないが、計画段階以降、現場の状況を踏まえ、琉球石灰岩層の厚さを考慮の上、検討していくことになる。
<ul style="list-style-type: none"> 琉球石灰岩を支持層とするかについては、再検証されているところであり、現在は50m程度の厚さであれば、打ち抜いている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 留意事項として、米軍基地を含め土壌汚染に留意して工事を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地形的・地盤的課題の一つとして、土壌汚染の可能性のある土砂の取り扱いについて追記した。（「資料4-2 事業実施にあたっての留意事項」p3～4, 21参照）

【環境影響】

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 留意事項として、トンネル工事で発生する土砂の捨て場の確保について留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設発生土砂の処分方法や再資源化量等について記載しているが、土砂の受入先として想定される県内公共事業等における有効利用についても検討することを追記した。（「資料4-3 環境影響について」p8参照）

【南北間の交流人口の増加、外出機会の増加】

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 南北間の交流人口や外出機会については、「トリップ数が増える」など移動の量が増えるような表現ではなく、交通手段や行き先の選択肢が増えることで、地域間移動の機会や外出機会が増えることがわかるような表現とした方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄軌道の導入により、県民や観光客の交通手段や行き先の選択の幅が広がることで、地域間移動の機会や外出機会が増加する可能性があるという表現に修正した。 （「資料4-4 南北間の交流人口の増加」p14及び「資料4-5 外出機会の増加」p11参照） また、行き先及び移動目的の選択肢拡大等の観点から、鉄軌道導入による車窓からの新たな視点場の創出による効果、又は鉄軌道導入によるレクリエーション施設等への影響についても追加修正を行った。（「資料4-3 環境影響について」p6, 19参照）

2. 鉄軌道導入にあたり求められる取組について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
・ 駅を考慮したまちづくりにおいて、「環境」も重要な視点であることから、環境に配慮したまちづくりについても記載した方が良い。	・ 駅周辺のまちづくりの中に、「快適な歩行環境や緑・音環境の確保等」に取り組むことが重要であることを追記した。（「資料5 駅を考慮したまちづくり」p3参照）
・ 姫路市では人と環境に配慮したまちづくりとして、姫路駅への自家用車での乗り入れ規制をしているので、事例として追加した方が良い。	・ 姫路駅の事例に、「駅前の車道を縮小・歩道を拡幅し、一般車の通行を制限して公共交通（バス・タクシー）優先としている」ことを追記した。（「資料5 駅を考慮したまちづくり」p14参照）